『［韓国の産業と市場別冊］韓国スマートフォン開発動向』レポート資料を販売開始

==========
『［韓国の産業と市場別冊］韓国スマートフォン開発動向』　レポート資料を販売開始

～
世界のスマートフォン関連市場動向を網羅！グローバル市場の製品トレンドの他、OS、アプリケーションストア市場、携帯電話関連タッチスクリーン市場も！ ～

≫ 『韓国スマートフォン開発動向』　資料詳細・販売ページ
http://planidea.jp/cc/psrl20110621
==========

マーケティング・リサーチ＆コンサルティングサービスを提供するPLANiDEA LLC.
（プラニディア合同会社）　は、ビスタ　ピー・エスによる調査レポート資料
『韓国スマートフォン開発動向』　の販売を開始しました。

≫ 『［韓国の産業と市場別冊］韓国スマートフォン開発動向』
http://planidea.jp/cc/psrl20110621

【資料概要】

グローバルスマートフォン開発戦略と市場の展望を通じて、世界のスマートフォン関連市場の動向を分析！

当資料　『韓国スマートフォン開発動向』
は、韓国の産業と市場動向に関する総合的な統計書である　『韓国の産業と市場』
の別冊として発刊されたもので、世界のスマートフォン市場の動向について、世界移動通信産業・携帯電話市場の動向から、スマートフォン市場の展望と主要グローバル企業別の事業戦略・製品開発動向などについて分析、さらに、スマートフォンOS市場やアプリケーションストア市場の動向、タッチスクリーン技術とその市場動向に至るまで、世界のスマートフォン関連産業の動向を綿密に調査・分析した内容が収録されています。

【本資料のポイント】

■ 「韓国の産業と市場」別冊版、世界のスマートフォン市場動向にフォーカス！
■ 米国/日本/中国/韓国、各国のスマートフォン市場動向を分析！
■ 主要グローバル企業 及び 韓国移動通信会社の動向、製品開発動向も！
■ スマートフォンOS市場、アプリケーションストア市場についても言及！
■ 携帯電話関連のタッチスクリーン技術とその市場動向も解説！
■ 統計データ/比較表/イメージなど、数値・図表を豊富に収録！

▼ 『韓国スマートフォン開発動向』 -発刊辞- より

アップルのアイフォンによって触発されたスマートフォン市場の爆発力は、携帯電話市場の地殻変動に止まらず、データ通信を主とする無線インターネット市場の拡大という通信市場の変化をもたらしており、PC市場でのようにOS競争、検索競争、コンテンツ競争など、産業全体に新しい経済環境を提示しており、そのなかで予測不能な新しい生態系を創出しています。

Gartnerの2009年11月 に発表された資料によると、2008年以降の一般フォン
（フィーチャーフォン）
市場はすでに飽和状態で、少しずつ減少する推移を見せるものと予想される反面、スマートフォンの販売は持続的な増加の趨勢を見せるものと展望されます。

2009年のスマートフォンの販売台数は、2008年の1億3千9百万台に比べて29.1%成長した1億8千万台規模と推定され、2013年には6億4千6百万台の規模に成長するものと見通されます。2009年の全体の携帯電話市場におけるスマートフォンの比重は15.3%と推定され、2013年には42.8%まで比重が拡大し、携帯電話市場の主流をなすものと展望されます。

最近、スマートフォン市場はグローバル携帯電話市場占有率1位であるノキアをはじめとして、その後に続いているサムスン電子とLG電子も安心できないほど、より競争が熾烈になってきています。最大のイシューになっているアップルのアイフォンをはじめとして、2010年に最も大きく成長するものと予想されているグーグルのアンドロイドフォン、アイフォンの地位を目指して再起の闘魂を見せているpalmのPre、HTC、さらにコンピューターメーカーのデルも中国市場を基盤にスマートフォン市場に進出し、熾烈な競争を繰り広げている状況です。

また、スマートフォン市場が拡大するなかでモバイル運営体制 （OS）
の主導権争いも激しくなっており、端末機製造会社やソフトウェア会社など業種の分野を問わずモバイルOS競争に進出しています。さらに、スマートフォンで重要な要素であるコンテンツを流通させることができるアプリケーションストア市場も拡大しています。

ここに、「グローバルスマートフォン開発戦略と市場の展望」
を通じて、グローバルスマートフォン市場の動向を分析し、グローバル市場に出資 （予定含む）された製品のトレンドを整理・分析しました。また、スマートフォンと密接な関連がある運営体系 （OS） およびアプリケーションストア市場も徹底的に調査・分析しました。

本報告書 『韓国スマートフォン開発動向』
が、グローバルスマートフォンおよび関連市場に進出した国内外の企業だけでなく、関心のある関連機関・企業の実務担当者に事業戦略の樹立と市場分析のための基礎資料として役立てられることを願います。

【資料目次】

※ 各章の詳細な目次・図表目次は、本サイトにて公開しております

Ⅰ. モバイルインターネット及び携帯電話市場の最近の動向

1. モバイルインターネットの市場概要

1) 定義及び分類
2) モバイルインターネット電話

- 移動通信の元祖 韓国最初の携帯電話はカーフォン
- 1世代 - アナログ移動通信
- 2世代 - デジタル移動通信
- ヨーロッパ方式移動通信（GSM）全世界の事業者の80%が採択
- 米国方式の移動通信（CDMA）韓国の主力の2世代技術
- 3世代 - 動画移動通信
- 3.5世代 - HSDPA移動通信
- 4世代 - モバイルインターネット移動通信
- WIBroとLTE 4世代の移動通信市場の主導権争い
3）モバイルインターネットの特性
4）激動する無線インターネット市場

2. 世界移動通信産業の動向

1）世界市場動向
2）韓国市場動向
(1) 市場規模動向
- 2009年移動通信産業の売上額22兆6千億ウォン規模
- 移動電話加入者4,961万名 - 前年対比5.4%増加
- SKTが50.7%で移動電話市場をリード
- 2009年10月 基準，携帯インターネット(WiBro)加入者28万名
(2) 基幹通信事業者
- 基幹通信事業者
(3) 料金及びデータ売上げ動向

3. 韓国無線インターネット利用実態

1）無線インターネット利用現況
(1) 無線インターネット利用率
- 利用時期 - 1年以内無線インターネット利用率 54.9%
- サービス類型別 - 移動電話無線インターネット利用率が52.6%
- 性別 - 男性の利用率が若干高い
- 年齢別 - 20代の利用率が最も高い
- 職業別 - 学生の利用率が最も高い
- 職業別 - 学生の利用率が最も高い
(2) 無線インターネット端末機利用現況
- 端末機利用率 - 満12～59歳の人口の99.0%が移動電話使用
- 無線インターネット端末機による無線インターネットー移動電話が52.6%で最も高い

2）移動電話無線インターネット利用現況
(1) 移動電話無線インターネット利用率
- 最近、1年以内の移動電話無線インターネット利用率は52.6%
- 男性と20代の利用率が高い
(2) 移動電話無線インターネット利用形態
- 移動電話無線インターネット利用期間 - 平均48.5ヶ月
- 移動電話無線インターネット利用頻度 - 週平均 2.1回
- 移動電話無線インターネット(1回)利用時間 - 平均5.7分
- 移動電話無線インターネット利用場所 - ‘移動中の交通手段内’が最も高い

- 移動電話無線インターネット利用目的 - 「デコレーション」が80.5%で最も高い
- 移動電話無線インターネット利用理由 -
「場所に関係なくインターネットが利用可能だから」が81.4%で最も高い

3) 移動電話無線インターネット利用料金
- 月平均移動電話無線インターネット利用料金 - 1万5千ウォン未満が68.1%
- 移動電話無線インターネット定額料金制利用現況 - 定額料金制利用者29.1%
- 移動電話無線インターネット定額制利用満足度

4. 政府支援政策動向

- 2013年無線インターネットコンテンツ市場3兆ウォン規模に育成
- 放送通信基金、スマートフォン活性化と投資
- 2010年政策研究事業予算167億ウォン
- 「モバイル産業対策班」の構成

5. 世界携帯電話市場の動向

1) 世界携帯電話市場の動向
2) 主要地域別携帯電話市場動向
3) 最近の携帯電話市場の問題点
(1) 移動通信4世代(4G)市場先占競争の可視化
(2) 進化するUI競争
- 端末製造会社のみならず移動通信会社・SW業者も注目

II. スマートフォン市場の展望と企業別開発動向

1. 市場概要

1) 定義および特徴
- スマートフォンの特徴

2. 市場動向および展望

1) 世界市場の動向
- 2013年スマートフォン市場規模6億5千万台
- 2013年スマートフォン市場規模6億5千万台
- ノキア - 世界のスマートフォン販売量1位
- スマートフォンの価格は一般フォン(feature phone)に比べて約3倍
(1) アメリカ市場の動向
- アメリカスマートフォン市場「RIM」41.6%占有/Android関心集中
(2) 日本市場の動向
-1. 最近の動向
-2. 市場展望および占有現況
- 2010年スマートフォン266万台販売の展望
- iPhone、日本のスマートフォン市場で占有率46.1%
- 新しい附加価値搭載で差別化戦略
-3. 企業の動向

-4. 成長要因
- 安値のデータ料金制導入による接近性の向上
- 業務環境機動性改善による法人市場拡大の可能性
(3) 中国市場の動向
- 中国のスマートフォンは携帯電話市場の7.5占有(2009年第3四半期基準)
- 2009年1月 、3G時代の開幕
- スマートフォン市場における競争の本格化
- 模造品企業もスマートフォン市場への進出を準備
- OS競争も深化

2) 韓国市場の動向
-1. 市場の展望および占有率
- 2010年、韓国におけるスマートフォン販売、185万台 (推定)
- アイフォン(iPhone)とAndroid搭載フォンが市場をリード
- 2010年上半期主導権競争
-2. スマートフォンの選好度
-3. 料金制度
- SKT - 定額料金制
- KT - 有無線網内無制限料金制の施行
- LGT - OZスマート料金制施行

3. 主要企業の動向および事業戦略

1) グローバル企業の動向
(1) ノキア (Nokia)
-1. 企業の現況および動向
- 徹底したOS管理
- スマートフォン市場攻略のための多様な提携
- 韓国市場で販売増加 - 補助金支給拡大が後押し
-2. スマートフォン事業戦略
- 2010年スマートフォンラインナップ、50%減少
- スマートフォン価格の値下げ調整
- インテルとモバイルプラットフォーム共同開発 → OS市場持分拡大
- 2010年、リナックスOSフォンは1種のみ発売
(2) RIM (Research in Motion)
-1. 企業の現況および動向
-2. スマートフォン事業戦略
- 端末とサービスが緊密に統合
- 「BlackBerry Enterprise Server Express」
- IBMと協業TOOL共助
-3. 主要販売モデル
(3) アップル (Apple)
-1.企業の現況および動向
-2. スマートフォン事業戦略
- アイフォン3GSで高額スマートフォン市場攻略/既存のアイフォンは安値で供給
- 競合するフォンに対する対応戦略
(4) HTC (High Tech Computer) Corporation
-1. 企業の現況および動向

-2. スマートフォン事業戦略
- WindowsモバイルOSとAndroid OS基盤
-3. 2010年スマートフォンロードマップ
- 「Design/Lifestyle」-「Legend」
- 「Design/Lifestyle」-「Salsa」
- 「SOCIAL」-「Tide」
- 「SOCIAL」-「Buzz」
- 「Performance」-「Bravo」
- 「Productivity」-「Photon」
- 「Productivity」-「Trophy」
- 「Productivity」-「Tera」
(5) シャープ(Sharp)
-1. 企業の現況および動向
- 多様なニーズに対応する戦略
-2. スマートフォン事業戦略
- 欧米市場への本格的な進出
- 日本国内携帯電話は「特化端末機」でシェア - を拡大/中国市場強化
- Android OSを採用したスマートフォン発売 - 多様なOS適用
(6) サムスン電子(SamSung Electronics)
-1. 企業の現況および動向
- 携帯電話販売量、市場成長率、2倍以上目標
-2. スマートフォン事業戦略
- 2010年スマートフォン販売3倍拡大(2009年に比べて)
- スマートフォンプラットホーム「bada」とこれを搭載した「badaフォン」発売
- Androidフォン発売、発表-拡張現実(Augmented Reality)機能搭載
- スマートフォン価格下落の検討
(7) モトローラ(Motorola)
-1. 企業の現況および動向
- Motorola、携帯電話特許の侵害でRIMをITC(国際貿易委員会)に提訴
- OS - GoogleのAndroidおよびLinuxに力を注ぐ
- ハンドセットとネットワーク事業部を2011年1分期に分社化する予定
(8) ソニーエリクスン(Sony Ericsson)
-1. 企業の現況および動向
-2. スマートフォン事業戦略
- オンライン協力プラットフォーム「Creations」公開
- ソフトウェア開発KIT「Web SDK」公開
- PSP(PlayStation)フォン発売の可能性予告
(9) LG電子
-1. 企業の現況および動向
-2. スマートフォン事業戦略
- Androidフォン発売
- Androidフォンに拡張実現アプリケーションをフリーロード方式で定着させる予定
- 普及型スマートフォン発売で価格下落
(10) グーグル(Google)
-1. 企業の現況および動向
-2. スマートフォン事業戦略
- Android搭載「Nexus One(Nexus One)」発表
- スマートフォン価格の下降調整

(11) その他企業の動向
-1.Lenovo
-2. Pantech
- Pantechスマートフォン発売沿革
-3. マイクロソフト(MS)

2) 韓国移動通信会社の動向
- 韓国移動通信会社3社、2010年スマートフォン約30種余り発売
- 移動通信会社3社 - サービス競争
- 移動通信会社の売り上げは持続的に成長する見込み
(1) SKテレコム
- 2010年、15種類のスマートフォン発売 - 200万台以上販売計画
- 無線インターネット事業活性化
- 通信網投資拡大
(2) KT
- 2010年、10種類のスマートフォン発売 - 150万台以上販売計画
- KT、Kolonグループにスマートフォン導入契約締結
- WiBroと無線ラン通信網拡大
(3) LGU+(旧LGテレコム)
- 2010年、5種類のスマートフォン発売 - 70～80万台以上販売計画
- 「脱通信」戦略

4. 製品開発の動向

1) 総合分析
- Android OSフォン9つのモデル - 50.0%占有
- CPU 1GHz 3つのモデル - 21.4%
- ディスプレイの大きさが3.2インチのモデルが6つ - 30.0%
- メモリ200～300MBモデルが9個 - 50.0%
- 854X480水準の高解像度提供
- カメラの画素-2010年以降の発売モデルはほとんど500万画素以上
- サイズ - 最も大きなモデルはHTC社のDesire
- 重さ-XPERIA X10ミニモデル88g
- 価格-2年約定基準、約200ドル水準

2) 世界市場における製品の動向
(1) 2009年主要モデルの動向
-1.ドロイド(モトローラ) - Android v2.0
-2. アイフォン(アップル)
- iPhoneの変遷
- アイフォン(iPhone)4世代
- アイフォン(iPhone)の沿革
- 主要販売地域および国家
-3. Pre (Palm) - Palm webOS
-4. Moment(サムスン) - Android 1.5
-5. Curve 8900 (BlackBerry)
-6. Env2(LG)
-7. e71(ノキア) - Symbian OS

-8. Tour 9630(BlackBerry) - BlackBerry OS 4.7
- BlackBerry Tour2 9650 - 2010年3月 頃
-9. hero(HTC)
-10. CLIQ(モトローラ) - Android v1.5(Cupcake)
- Androidフォン「CLIQXT」を発売
(2) 2010年発売のスマートフォン
-1. GD880 MINI(LG)
-2. MSフォン
-3. Wave(サムスン)
-4. Halo(サムスン)
-5. Desire(HTC)
-6. PUMA PHONE
-7. HD Mini(HTC)
-8. Acer Phone
-9. Vivaz(ソニーエリクソン)
-10. Xperia X10 ミニ
-11. Nexus One(グーグル) - Android v2.1
- Nexus Oneの主要な機能
-12. Toshiba Phone

3) 韓国市場における製品の動向
- アイフォン対Androidフォンの競争構図
- 2010年韓国で発売されたスマートフォンは約40余種
(1) 韓国主要モデル
(2) 2010年主要発売モデル
-1. LG-KH5200(LG)
-2. LG-Optimus One(KU3700)
-3. SHW-M100S(サムスン電子)
-4. サムスン-GalaxyS(SHW-M110S)
(3) 2010年の主要な技術動向
-1. NFC(Near Filed Communication)技術を通したタギングおよび決済
-2. mVoIPインターネット通話
-3. 無線APの必要ないWi-Fi、Wi-Fi Direct
-4. デュアルコアCPU

III. スマートフォンOS及びアプリケーションストア市場の動向

1. スマートフォンOS市場の動向

1) スマートフォンOS市場の課題及び動向
- OS - 端末機を購入する重要な要因として浮上
- OS市場の競争熾烈化
- 開放型と閉鎖型の競争
- 新しいOS(bada, Meego)は新しい変数
- iPhone OSが51%占有、世界市場をリード

2) 主要スマートフォンOS別動向
(1) アンドロイド(Android)

-1. 現況及び概要
-2. 構成及び機能
-3. 開発環境
-4. ライセンス
-5. 沿革
(2) ブラックベリー(BlackBerry) OS
-1. 現況と概要
-2. 最新バージョン
-3. ブラックベリー(BlackBerry)ネットワークサービス
- BlackBerry Enterprise Service (BES)
- BlackBerry Internet Service (BIS)
- BlackBerry Dual Service (BDS)
(3) アイホン(iPhone) OS
-1. 現況及び概要
-2. アプリケーションソフトウェア
-3. SDK
-4. iPhone OSバージョン
- バージョン
- バージョン2.2
- バージョン2.2.1
- バージョン
- バージョン
- バージョン 3.1.2
- バージョン 3.1.3
- バージョン
(4) シムビアン(Symbian) OS
-1. 現況と概要
-2. プログラミングの特徴
-3. ウィルス問題
-4. シムビアン(Symbian) OSロードマップ
(5) ウィンドウモバイル(Window Mobile) OS
-1. 現況及び概要
-2. バージョンの推移
- Palm-size
- Palm-size
- Pocket
- Pocket PC 2002
- Windows Mobile 2003
- Windows Mobile 2003
- Windows Mobile
- Windows Mobile
- Windows Mobile
- Windows Mobile
- Windows Phone
(6) ミーゴ(MeeGo)
(7) バダ(Bada)
- 「パダ」のアプリケーション C++言語環境で開発

2. モバイルアプリケーション市場動向

1) 概要及び市場展望
- 2010年世界のアプリケーションストア市場は67億404万ドル規模
- Lotus Notesアプリケーション初登場

2) 世界のアプリケーションストアの動向
(1) アップルのApp Store
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. APPストアの市場動向
(2) グーグルのアンドロイドマーケット(Android Market)
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. アンドロイドマーケットの市場動向
(3) ブラックベリーApp World
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. 市場動向
(4) nokiaのOvi Store
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. 市場動向
(5) マイクロソフトのWindows Market Place for Mobile
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. 市場動向
(6) スーパーAPPストア

3) 韓国のモバイルアプリケーションストア市場動向
(1) SKテレコム - Tストア(T-store)
-1. 概要
-2. アプリケーション開発
-3. 市場動向
(2) サムソン電子
-1. 概要
-2. 事業戦略
(3) LG電子
-1. 概要
-2. 事業戦略
(4) KT Show-Appstore
-1. 概要
-2. 事業戦略

4) 韓国アプリケーションストア市場の課題

IV. 拡大するタッチスクリーン技術と市場動向

1. 概要

1) タッチスクリーン(Touch Screen)の定義
2) タッチスクリーンの構成
(1) タッチパネル (touch panel)
(2) コントローラー (Controller)
- RS-232C [recommended standard-232C]
- USB
(3) ソフトウェア (Software)
3) タッチスクリーンシステムの作動
- タッチスクリーンシステムの基本要素
4) タッチスクリーンの種類
- 静電容量方式 (Capacitive Overlay)
- 圧力式抵抗膜方式 (Resistive Overlay)
- 表面超音波方式(Surface Acoustic Wave)
- 赤外線方式(Infrared Beam)
5) タッチスクリーンの長所と短所
- 長所
- 短所
6) タッチパネル(touch panel)の特性と用途
7) タッチスクリーンの主要な適用分野
(1) 個人用携帯端末機(携帯電話, PDAなど)
(2) 銀行と仲介所
(3) 病院/研究室
(4) 事務自動化応用分野(OA) / 工場自動化(FA)
(5) 工場自動化装備コントロール
(6) コンピューター基盤訓練およびシュミレーション応用分野
(7) 教育応用分野
(8) ゲーム応用分野
(9) 障害者用の入力装置およびその他施設物の入力装置

2. 携帯電話関連タッチスクリーンの動向

3. マルチタッチスクリーン

- 実用化方式
- 機能および作動
- Application
- マルチタッチ開発動向

4. タッチスクリーン市場の動向

1) 世界市場の動向
2) 韓国市場の動向

5. 主要企業の現況

1) (株) MELFAS

2）（株）DigiTech Systems
3）ELK（株）
4）（株）MOREENS

※ 各章の詳細な目次・図表目次は、本サイトにて公開しております

【商品概要】

商品名 ： ［韓国の産業と市場別冊］韓国スマートフォン開発動向
発 刊 ： 2011年3月
発 行 ： ビスタ ピー・エス
調 査 ： DACO IRI / デイコ産業研究所
販 売 ： PLANiDEA SurveyReport運営事務局
判 型 ： A4判 335ページ
価 格 ：
報告書［製本版］
50,000円 （本体価格 47,619円＋消費税 2,381円）

販売ページURL ：
http://planidea.jp/cc/psrl20110621

■ 関連サイトURL

PLANiDEA ［SurveyReport］
http://surveyreport.planidea.jp/

■ 本件に関するお問合せ先

プラニディア合同会社 広報担当
お問合せURL ： http://planidea.jp/contact.html
E-Mail: info@planidea.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com